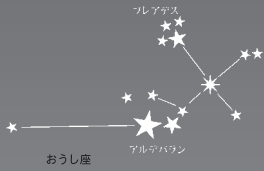


ポラリスを仰ぐ北の大地から



ドライブ一人旅

千歳医師会 会長 佐藤 貢

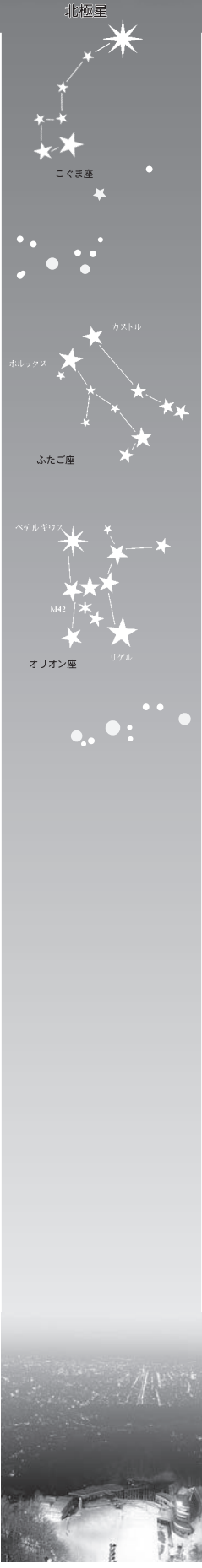
学生時代には医師になれば経済的に余裕ができて、好きなだけ海外旅行を楽しめると思った。しかし夢は夢で終わりつつある。

今まで行った所は、韓国、アメリカ、シンガポールなど数カ国に過ぎない。ヨーロッパに行って大英博物館、ルーブル美術館などで歴史の探索や絵画の鑑賞もしてみたかった。しかし、最近は古希に近づき、海外より国内の旅行が楽しくなってきた。平成27年は、3歳の孫も含めて大家族7人で沖縄旅行。また、30年にはNHK「西郷どん」で人気の鹿児島へ行った。名所旧跡を訪れ、夜は美味しい料理を堪能した。少々出費が嵩んだが家族の絆のためである。最近は一人で1～2泊のドライブ旅行をすることも多い。一人なので旅行ではなく「旅」である。

旭川方面に向かうときは、高速道路を避けて、国道275号線を走る。月形温泉で身を癒やして、昼食の後は休憩室でゴロリと昼寝。その後は、石狩川沿いに北上しながら、明治時代に囚人たちが道路開削の厳しい苦役に服したことを想像する。この史実については、小説家吉村昭の『赤い人』という本に詳しい。旭川市では40年来の友人と会い、サンロク街で痛飲する。翌日は美瑛町、富良野市を経て上富良野町で後藤純男美術館に寄る。日本や中国の大自然を描いた日本画の大作にいつも感動する。

十勝方面では、鹿追町の神田日勝記念美術館の絵画を楽しんだ後、夜は帯広市でばんえい競馬を見ながら、北海道の開拓期を支えた農耕馬の姿を想像する。翌日は幕別町の忠類ナウマン象記念館、さらに南下して、襟裳岬、日高路を経て千歳市の我が家に帰宅。

北海道は、本当に広いので色々なドライブコースが楽しめる。各地の温泉や道の駅を起点にドライブ一人旅は当分続きそう。



アナログからデジタルへ ただ春の夜の夢のごとし

恵庭市医師会 会長 島田 道朗

私が医者になった昭和57年（1982年）当時は、まだワープロが普及していませんでした。医局には和文タイプライターがあり、医局員はタイプができる事務員さんに、論文の清書を順番待ちでお願いしていました。地方病院時代には、方眼紙に手書したものをスライドにしたこともありました。医局慣れした頃からは、プロパーさん（今のMR）にお願いして、ジアゾのスライドを作ってもらったものです。その後、ワープロ専用機（NEC文豪・東芝ルポ・シャープ書院など）が普及し、論文やスライド原稿も、書き直しなく修正できるようになりました。

平成に入るとパソコンとワープロソフトが低価格化し、いよいよ文書作成はデジタルの時代へと突入しました。私の医局では、アメリカ帰りの先輩がMacintosh（いわゆるMac）を携えて帰国、Mouseを駆使してスライドやポスターを自作し始めました。Microsoft WindowsとOfficeが世間を席卷し始めたのが平成7年（1995年）頃です。しかし、通信はまだデジタルではなく、Faxのようにピーと音がするModemを電話回線に取り付けていたような気がします（画像が一枚送られるのに時間がかかりイライラしたものです）。

私が最初に地方病院に勤務した昭和57年（1982年）には、ポケベルを持たされ、呼び出し音に「ドキッ！」としたことを思い出します。ショルダーフォンが出現したのが昭和62年（1987年）、1990年代中頃から、いわゆる「ガラケー」が普及し始めます。平成20年（2008年）にiPhone（3G）が発売され、IT（Information Technology）時代の幕開けとなりました。ただし、ここに挙げたものは今や博物館入り一步手前です。現在私は、手元のMacBookとiPhone（4G）だけで事足りています。新元号が『令和』となり、便利さはますます加速するでしょう。なぜか、一抹の寂しさを感じる今日この頃です。

『家電話のベルの音、諸行無常の響きあり。
Ok Google！沙羅双樹の花の色は？』
*インターネットで年代を検証しながら書いています。